Lesson 5

目次・索引・柱を作る

Lesson 5 目次・索引・柱を作る

Point Lesson5 では Smart-ex を用いた目次や索引、柱の作成方法を学びます。組版済みの MC-Smart データから目次や索引の作成に必要な情報を抽出し、加工します。

Step1 Smart-ex の概要

Step1 では Smart-ex のソフトの概要や目次・索引・柱作成の流れについて学びます。

Step2 目次の作成

Step2 では目次の抽出方法と、その後の WordReplacer での加工方法について学びます。

Step3 索引の作成

Step3 では索引の抽出方法と同じ項目をまとめる索引の処理方法を学びます。

Step4 柱の作成

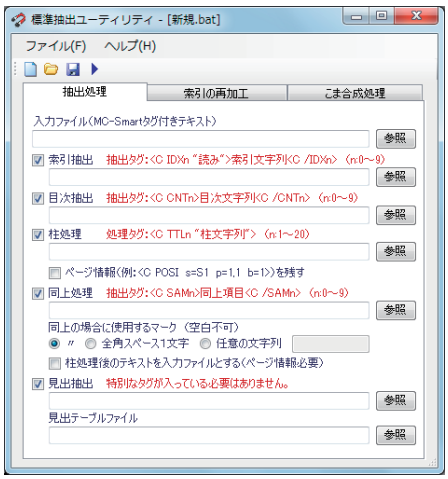
Step4 では柱の加工処理方法を学びます。

Step1 Smart-ex の概要

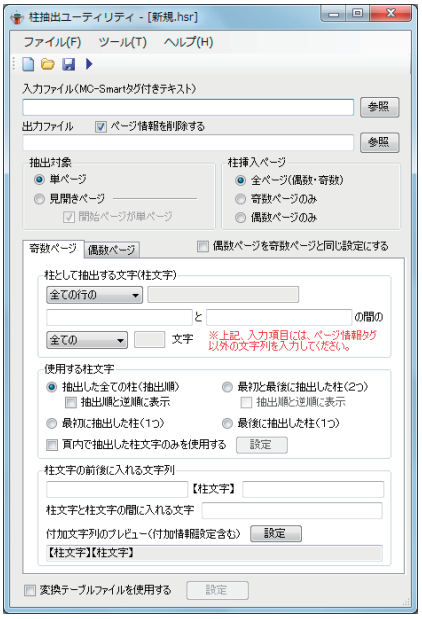
1 Smart-ex とは

Smart-ex は、テキスト内に改段、改ページなどの組版結果を反映した情報を付加するプラグインソフトウェアです。標準抽出ユーティリティ・柱抽出ユーティリティと連携して目次・索引・柱の作成を可能にします。
上記ユーティリティでは、MC-Smart データにあらかじめ各種タグを入れておくことで、組版済みの MC-Smart データから見出しや索引などの情報を抽出し、加工することができます。

標準抽出ユーティリティ

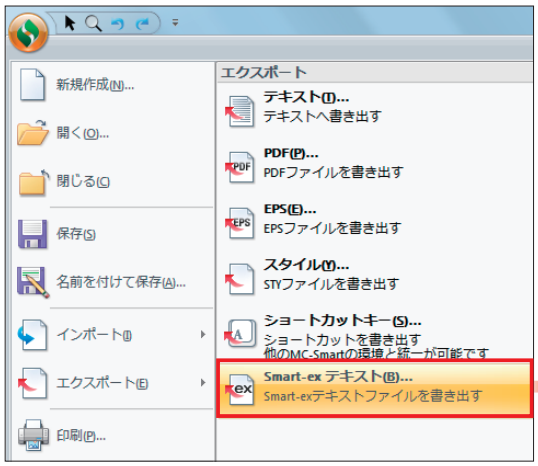


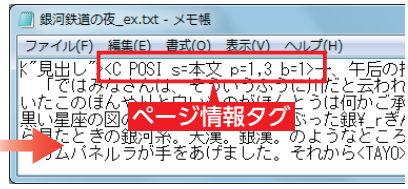
柱抽出ユーティリティ



Smart-ex テキストとは

Smart-ex テキストとは MC-Smart の付属ソフトで利用できるテキスト形式です。改行や改段などのページ情報が記されたタグ**＜C POSI S ＝セクション　p= ノンブル 1, ノンブル 2　b= 段番号＞**が挿入されています。
MC-Smart の をクリックして、**【エクスポート】→【Smart-ex テキスト】**から書き出すことができます。



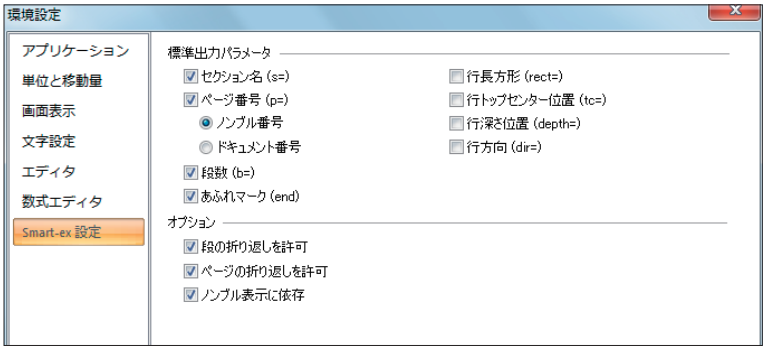


MC-Smart には以下のソフトが付属しています。
- Smart-WordIn
- Smart-WordOut
- Smart-index
- Smart-ex Tools
  - WordReplacer
  - 標準抽出ユーティリティ
  - 柱抽出ユーティリティ
- Smart-Imposer

MDS-Smart には以下のソフトが付属しています。
- MC-Smart
  ※上記の付属ソフトを含む
- 数式オプション
  - 数式フォント
  - 数式エディタ
- DB カタログオプション
  - MXP for Smart
  - MJF for Smart

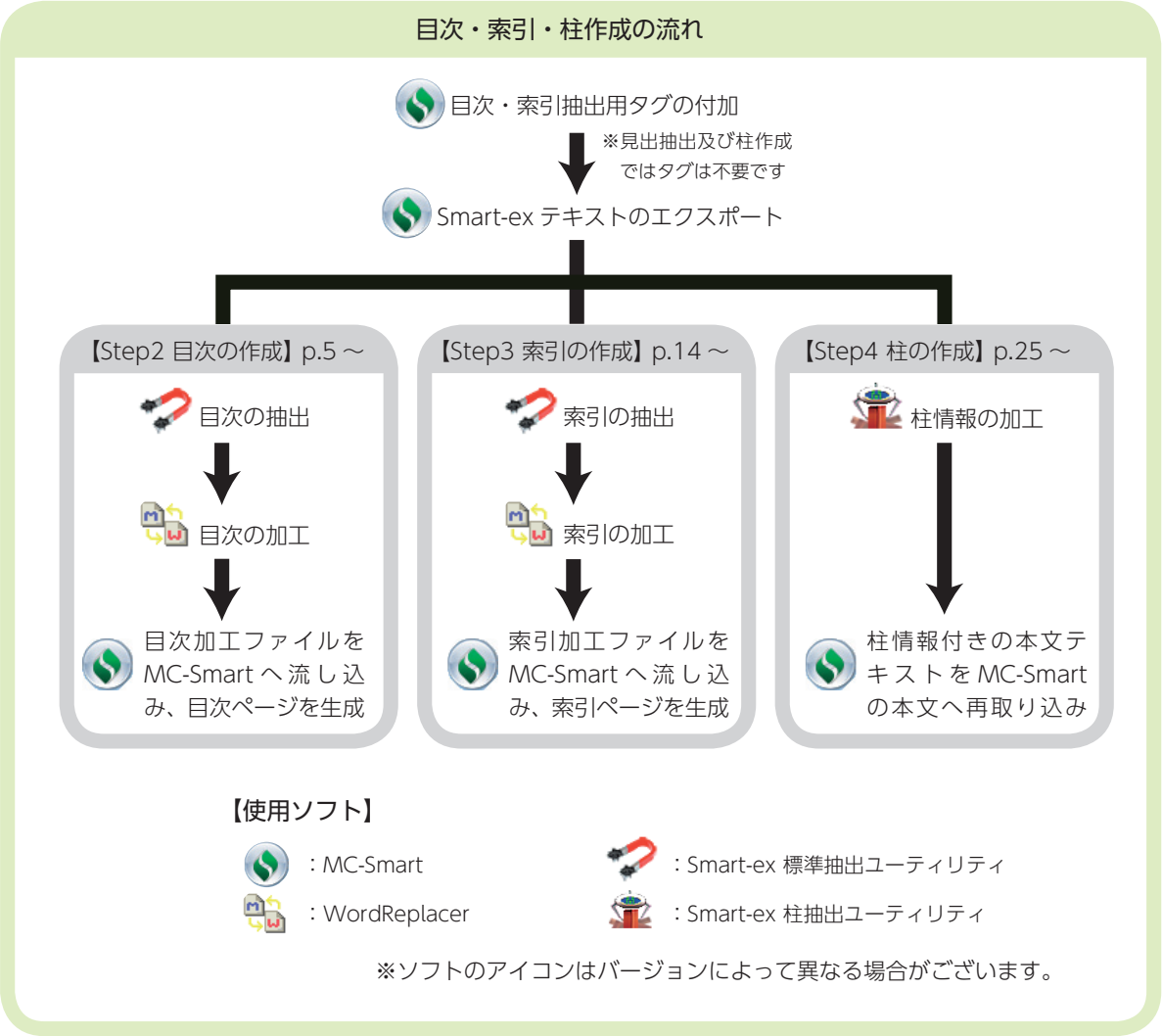
環境設定

Smart-ex テキストのエクスポートで書き出すページ情報は、をクリックして、**【環境設定】→【Smart-ex 設定】**から設定できます。



2 目次・索引・柱作成の流れ

本チュートリアルでは下図のような流れで標準抽出ユーティリティ・柱抽出ユーティリティを使用して目次・索引・柱を作成します。



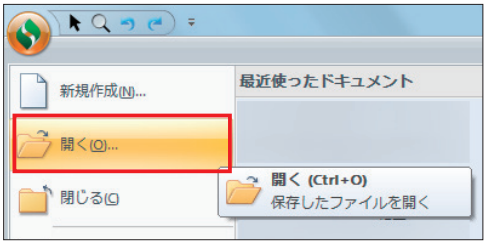
Step2 目次の作成

標準抽出ユーティリティの見出抽出機能を使って目次を作ります。見出抽出では、本文中に指定されている見出しスタイルの文字列と、そのノンブル番号などを抽出することができます。

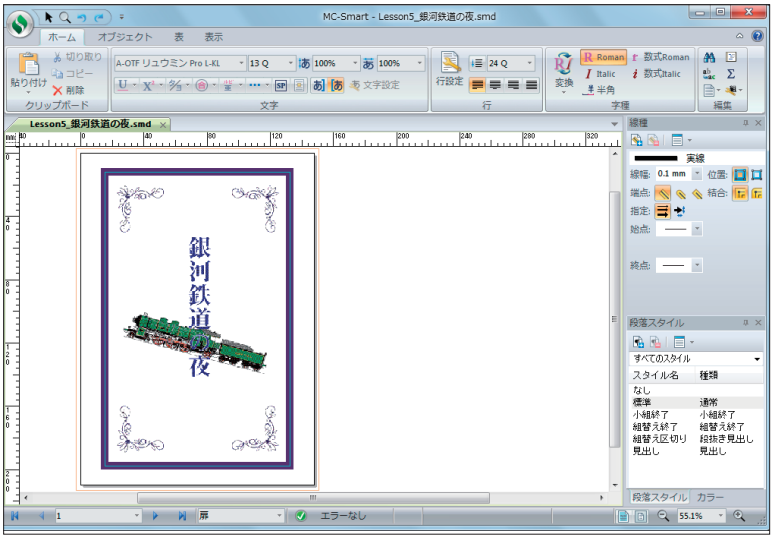
1 Smart-ex テキストをエクスポートする

ファイルを開く

1 をクリックして、**【開く】**をクリックし、**【Lesson5】**フォルダにある『**Lesson5_銀河鉄道の夜 .smd**』を選択してファイルを開きます。



ファイル名
Lesson5_ 銀河鉄道の夜 .smd

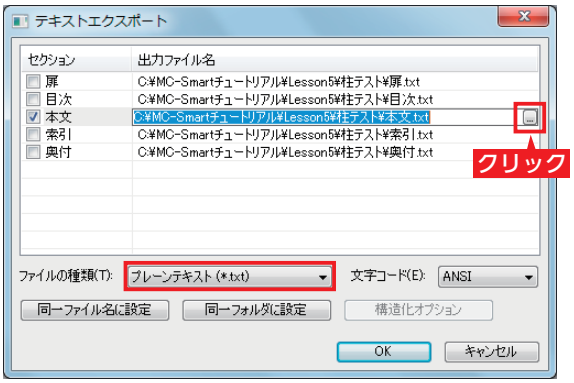


Smart-ex テキストを書き出す

2 本文内にカーソルを挿入した状態で をクリックして、**【エクスポート】→【Smart-ex テキスト】**をクリックします。

選択ツールの状態では Smart-ex テキストのエクスポートはできません。表示がグレーアウトします。

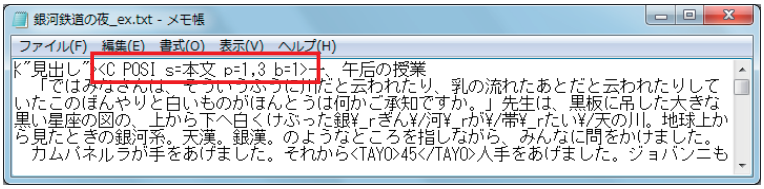
3 セクション『**本文**』のみ書き出すため、『**扉**』『**目次**』『**索引**』『**奥付**』のチェックを外します。『**本文**』のセクションの ... をクリックし、保存場所を任意に指定し、ファイル名を『**銀河鉄道の夜 _ex**』、【**ファイルの種類**】を【**プレーンテキスト**】にします。



ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex.txt

4 【OK】をクリックして書き出します。

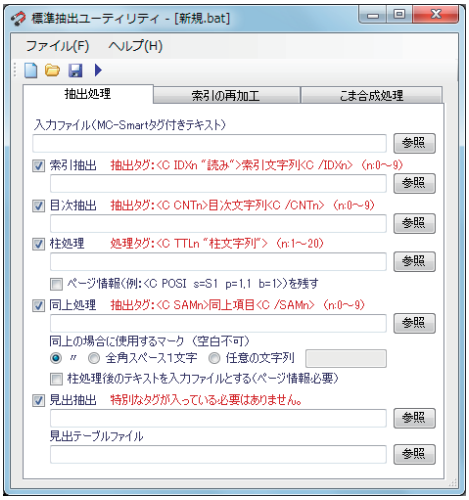
5 ページ情報タグ <C POSI ～ > が付加されたタグ付きテキストが出力されます。



2 標準抽出ユーティリティの起動と入力ファイルの指定

標準抽出ユーティリティの見出抽出機能を使って、書き出した MC-Smart タグ付きテキストから目次に使うテキストを抽出します。

1 標準抽出ユーティリティを起動します。



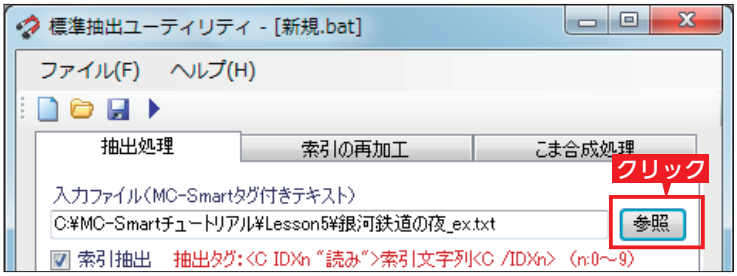
Smart-ex テキストのエクスポートでは、以下の 2 種類のテキストを書き出すことができます。

プレーンテキスト：本文エリアのテキストのみ出力します。

構造化テキスト：本文エリア、テキストボックス、固定表、浮動表、線組を一括で出力します。

※マスターページのテキストボックス、固定表、線組、柱、ノンブルは対象外です。

2 【入力ファイル（MC-Smart タグ付きテキスト）】の【参照】をクリックし、『**銀河鉄道の夜 _ex.txt**』を開きます。



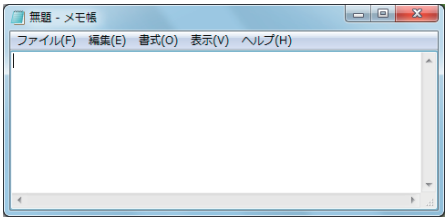
ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex.txt

3 見出テーブルファイルの作成と実行

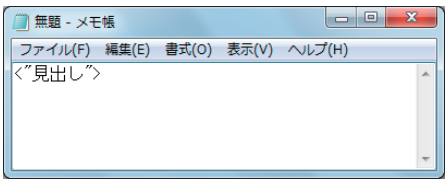
標準抽出ユーティリティの見出抽出機能では、どのスタイルの文字を抽出するかを記述した見出テーブルファイルを指定する必要があります。ここでは『**見出し**』スタイルを目次として使用します。

見出テーブルファイルの作成

1 メモ帳を起動します。

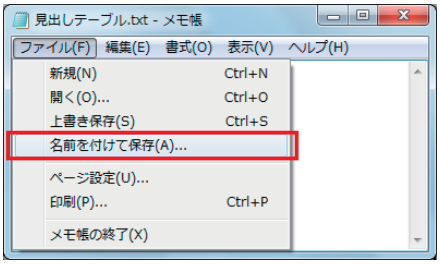


2 下図のように抽出したい見出しスタイルのタグを 1 行目に記述します。



テーブル内容
<" 見出し ">

3 【ファイル】メニュー→【**名前を付けて保存**】をクリックし、ファイルを任意の場所に『**見出しテーブル .txt**』という名前で保存します。



ファイル名
見出しテーブル .txt

入力ファイルを指定すると、チェックが入っている項目の出力ファイル名は自動的に設定されます。
（例）見出抽出の場合
　入力ファイル名 _ 見出 .txt

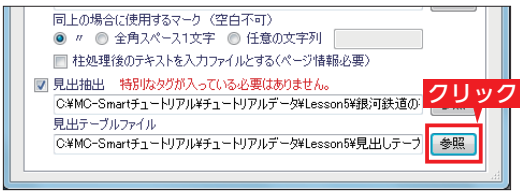
テーブルを作成するソフトはメモ帳に限らず、任意のテキストエディタがご利用いただけます。

見出抽出機能で段落スタイルを適用した段落を抽出するには、該当段落の冒頭に <" ～ "> の文字列が明示的に書かれている必要があります。段落スタイルの「次の段落」「くり返し数」機能を使って自動適用された段落には対応していません。

複数の見出しスタイルを抽出する場合、テーブルには改行を入れて複数の見出しタグを記述します。
（例）<" 見出し ">¶
　　<" 見出し 2">¶
　　<" 見出し 3">¶
※必ずテーブルの最終行の行末にも改行を入れてください。

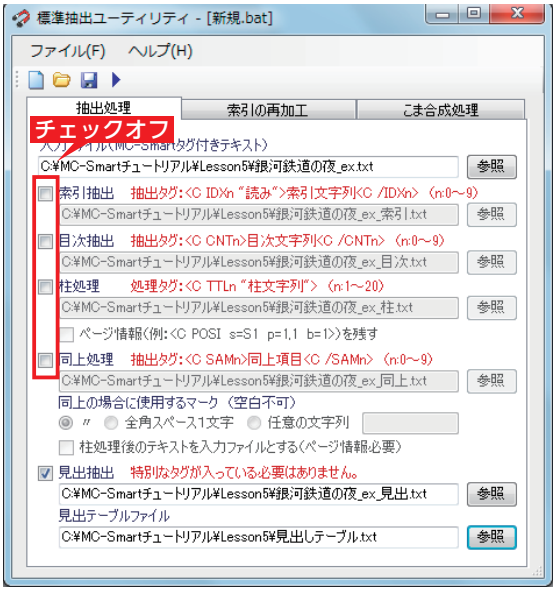
見出テーブルファイルの実行

4 標準抽出ユーティリティで【**見出テーブルファイル**】の【**参照**】をクリックし、『**見出しテーブル .txt**』を指定します。

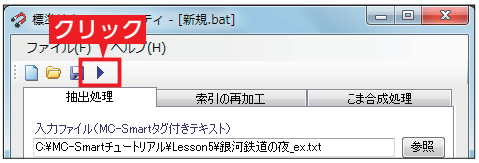


ファイル名
見出しテーブル .txt

5 【**見出抽出**】以外の項目のチェックを外します。



6 ▶をクリックして実行します。



7 見出抽出ファイルが作成されます。

8 【**ファイル**】メニュー→【**名前を付けて保存**】をクリックし、ファイルを任意の場所に『**見出抽出 .bat**』という名前で保存します。標準抽出ユーティリティはこの後も使用しますので、起動したままにしておきます。

ファイル名　見出抽出 .bat

見出抽出ファイルは Tab 区切りのデータで出力され、各列の書式は以下のようになります。
1 列目：テーブル指定順番号
2 列目：見出文字
3 列目：ノンブル 1
4 列目：ノンブル 2
5 列目：段番号

ノンブルを 3 種類以上使用していた場合でも、書き出されるのはノンブル番号 1/2（N1/N2）のみとなります。

『.bat』のファイルには標準抽出ユーティリティの設定が保存されています。ダブルクリックすると設定した処理が自動で走ります。また、標準抽出ユーティリティでファイルを開く場合は【**ファイル**】メニュー→【**開く**】からファイルを指定します。

4 WordReplacer で出力ファイルを加工する

見出抽出ファイルをそのまま MC-Smart にインポートすることもできますが、より効率よくデータを作成するために、WordReplacer を使用してデータを加工し形成してから流し込みます。
今回は以下のようにテキストを置換します。

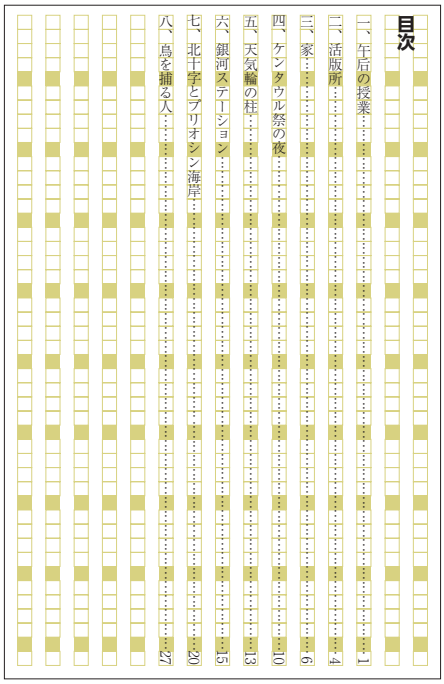
【置換前】

1	一、午后の授業	1	3	1
1	二、活版所	4	6	1
1	三、家　6	8	1	

【置換後】

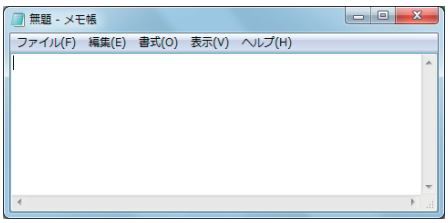
一、午后の授業 <FIL type=LED," ブラック ",100%>1
二、活版所 <FIL type=LED," ブラック ",100%>4
三、家 <FIL type=LED," ブラック ",100%>6

【MC-Smart 取り込み後のイメージ】



変換テーブルを作成する

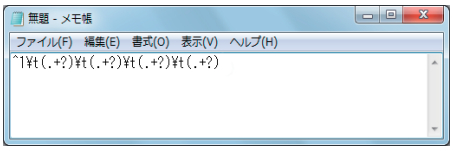
1 メモ帳を起動します。



WordReplacer とは、テキストファイル内の複数の文字列を置換するソフトウェアです。変換テーブルファイルを参照し、複数のファイルや文字列を一括で変換処理します。
変換テーブルは下記のように表します。

変換前【Tab】変換後 ¶

2 下図のように正規表現を使って変換前の文字列を記述します。



変換テーブル例

^1¥t(.+?)¥t(.+?)¥t(.+?)¥t(.+?)

正規表現とは

正規表現とは、ある特定の文字列ではなく、文字列の一部をパターン化して表現する手法をいいます。複数行ある文章の中から文字列を検索する際に、検索したい文字列全てを指定するのではなく、文字列の任意の一部を置き換え可能な状態にして検索をする場合に正規表現を用います。

例えば文章中から「第1章」「第2章」…「第9章」という章番号を検索したい場合、1つずつ行うのではなく、正規表現を使って「第(.)章」と検索することで、一度の検索で全ての項目をヒットさせることができます。

正規表現例

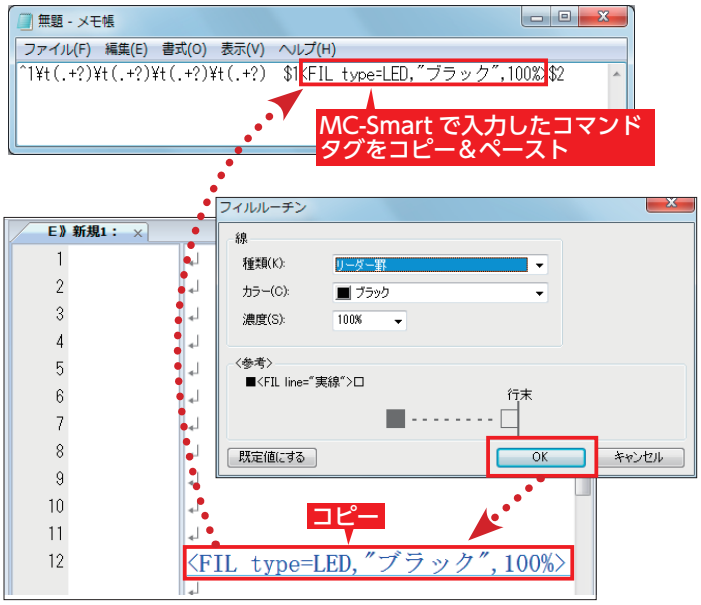
文字列	意味
^	先頭の
¥t	タブスペース
(.+?)	1 個以上のある複数文字
(.)	ある 1 文字

3 続けて以下のように【Tab】キーを入力します。

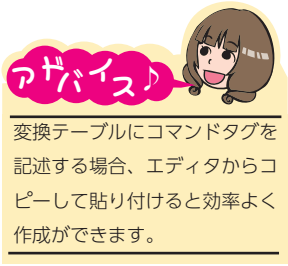
変換テーブル例

^1¥t(.+?)¥t(.+?)¥t(.+?)¥t(.+?)【Tab】

4 続けて下図のように変換後の文字列を入力します。フィルルーチンは MC-Smart のエディタで入力したものを【Ctrl+C】でコピーし、【Ctrl+V】でペーストします。



WordReplaer の置換条件指定には、Perl の**正規表現**を利用できます。詳しくは WordReplacer のヘルプメニューから WordReplacer 例題集をご参照ください。



変換テーブルにコマンドタグを記述する場合、エディタからコピーして貼り付けると効率よく作成ができます。

変換テーブル例

^1¥t(.+?)¥t(.+?)¥t(.+?)¥t(.+?)【Tab】

$1<FIL type=LED," ブラック ",100%>$2¶

正規表現例

文字列	意味
$n（※ n=1 ～ 9）	（　）間の一括りの変換前のデータを一つの $n とする

（例）「第 1 章」「第 2 章」などの章番号を検索し、
コマンドを付加する場合

変換テーブル
第 (.) 章【Tab】<J size=9Q> 第 $1 章 </J>

置換前
第 1 章　午后の授業
第 2 章　活版所

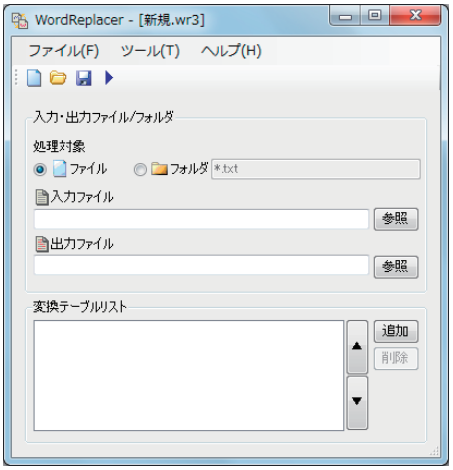
置換後
<J size=9Q> 第 1 章 </J>　午后の授業
<J size=9Q> 第 2 章 </J>　活版所

5 【ファイル】メニュー→【名前を付けて保存】をクリックし、ファイルを任意の場所に『**変換テーブル _ 目次加工 .txt**』という名前で保存します。

ファイル名
変換テーブル _ 目次加工 .txt

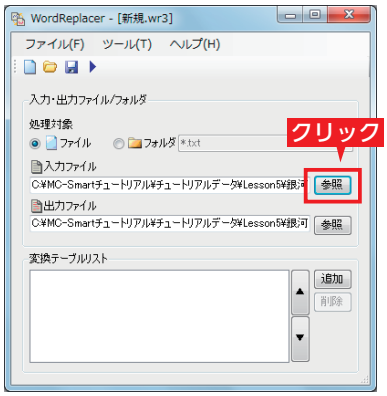
WordReplacer を実行する

6 WordReplacer を起動します。



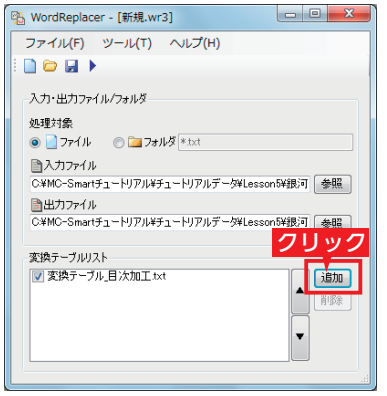
変換テーブルは『Lesson5』フォルダ内の『テーブル』フォルダにもご用意していますので、必要に応じてご参照ください。
『変換テーブル _ 目次加工 .txt』

7 【入力ファイル】の【参照】をクリックし、『**銀河鉄道の夜 _ex_ 見出 .txt**』を指定します。



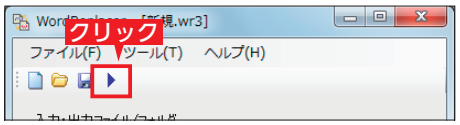
ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex_ 見出 .txt

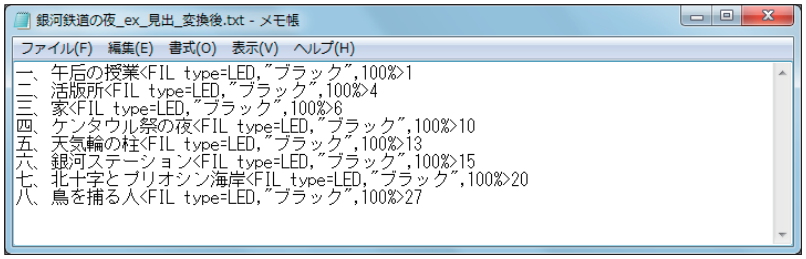
8 【変換テーブルリスト】の【追加】をクリックし、『**変換テーブル _ 目次加工 .txt**』を指定します。



ファイル名
変換テーブル _ 目次加工 .txt

9 ▶をクリックして実行します。





10 【ファイル】メニュー→『**名前をつけて保存**』をクリックし、ファイルを任意の場所に『**目次加工 .wr3**』という名前で保存します。WordReplacer はこの後も使用しますので、起動したままにしておきます。

ファイル名　目次加工 .wr3

入力ファイルを指定すると、出力ファイル名は自動的に設定されます。
(例)
入力ファイル名 _ 変換後 .txt

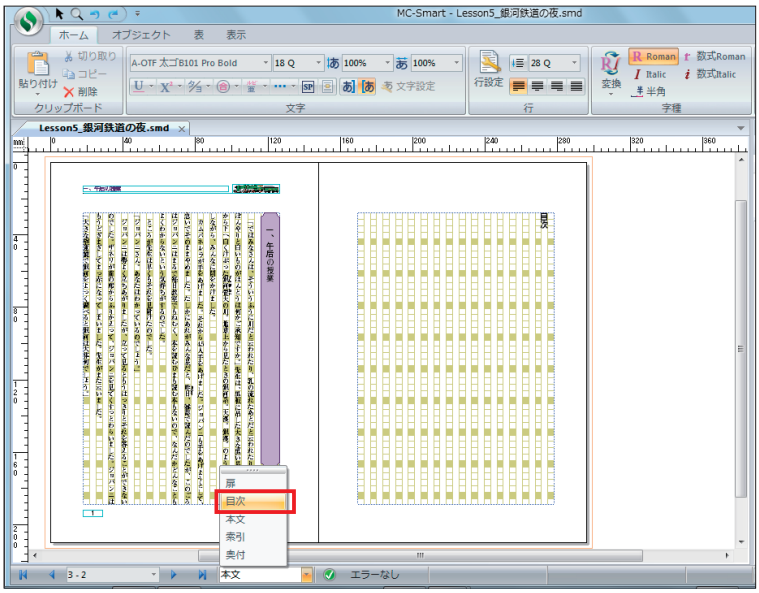
WordReplacer の変換テーブルは複数指定することができます。また、チェックの ON/OFF で指定したテーブルを使用する / しないを選択できます。

拡張子「.wr3」は WordReplacer の設定ファイルです。ダブルクリックすると WordReplaer が起動します。

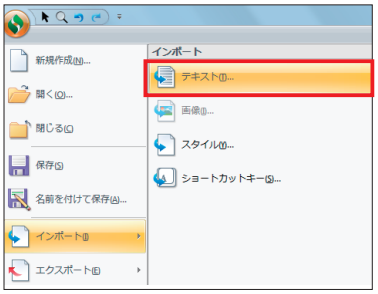
5 加工済みテキストをインポートする

WordReplacer で加工したテキストを、MC-Smart に流し込みます。

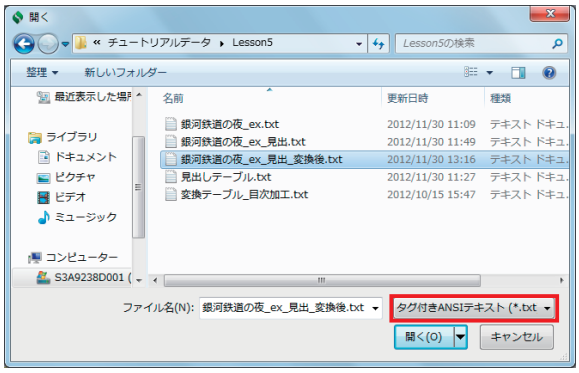
1 『**Lesson5_ 銀河鉄道の夜 .smd**』を開き、ステータスバーから『**目次**』を選択し、目次セクションに移動します。



2 『**目次**』という見出しの次行にカーソルを置いた状態で をクリックして、**【インポート】→【テキスト】**をクリックします。



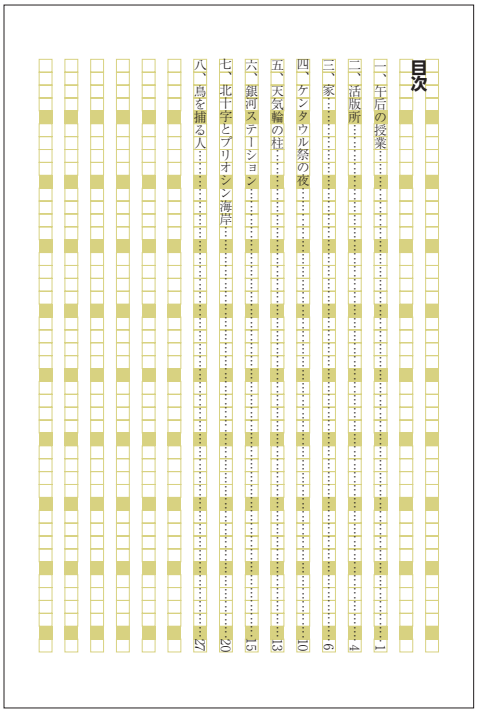
3 ファイル名に『**銀河鉄道の夜 _ex_ 見出 _ 変換後 .txt**』を指定し、**【タグ付き ANSI テキスト】**を選択して**【開く】**をクリックします。



ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex_ 見出 _ 変換後 .txt

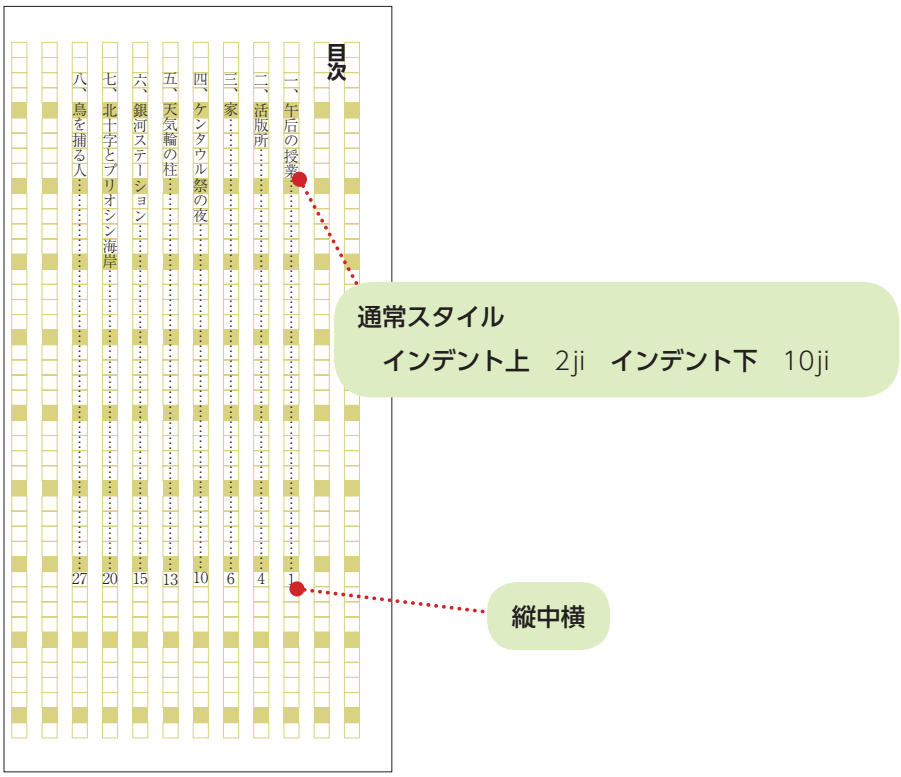
ANSI テキスト、Unicode テキストを選択すると、テキストファイルの中のタグの記述がコマンドではなくテキスト扱いでインポートされます。

4 目次テキストが流し込まれます。



6 ページの体裁を整える

1 下図のように目次テキストに段落スタイルを適用したり、縦中横の処理を行い、目次ページを完成させます。



2 をクリックして【**名前を付けて保存**】をクリックし、【**Lesson5**】フォルダに『**Lesson5_ 銀河鉄道の夜 _ 目次 .smd**』という名前でファイルを保存します。

Step3 索引の作成

標準抽出ユーティリティの索引・目次・柱抽出機能を使用するには、入力ファイル内に専用のタグが挿入されている必要があります。このタグは組版データである MC-Smart のデータにあらかじめ挿入しておきます。

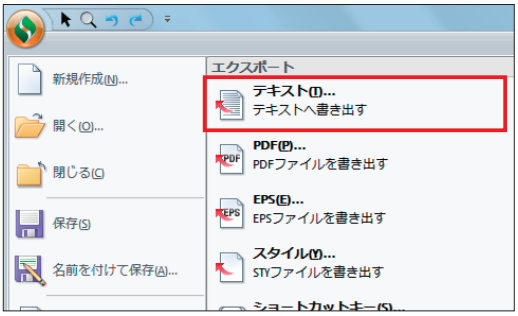
索引抽出タグ：<C IDXn " 読み "> ～ <C /IDXn>　※ n は 1 ～ 9 の数字

索引タグは手作業で入力することもできますが、数が多い場合はテキストによるリストを作成し、WordReplacer を使用して一括でタグ付けを行うと便利です。本チュートリアルではリストを作成して処理します。

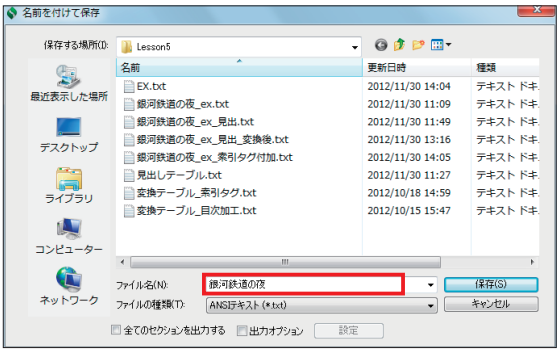
1 プレーンテキストの書き出し

WordReplacer で処理を行うために、まずページ情報タグの入らないプレーンテキストの書き出しを行います。

1 『**Lesson5_ 銀河鉄道の夜 .smd**』を開き、本文ページにカーソルを置いた状態で をクリックして、**【エクスポート】→【テキスト】**をクリックします。



2 ファイル名を『**銀河鉄道の夜**』として**【保存】**をクリックします。



ファイル名
銀河鉄道の夜 .txt

2 WordReplacer の実行

MC-Smart から書き出したプレーンテキストに WordReplacer を利用して索引タグを付加します。ここでは下図のようにテキストを置換させます。

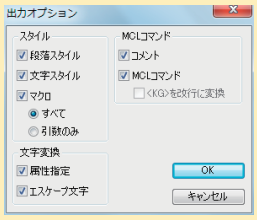
【置換前】
～と云いながら、自分で星図を指しました。～

【置換後】
～と云いながら、自分で <C IDX1 " せいす "> 星図 <C /IDX1> を指しました。～

WordReplacer で索引タグを付加する変換を行う際は**【エクスポート】→【テキスト】**で書き出したプレーンテキストを使用してください。ex 書き出ししたテキストはページ情報タグが入るため、正しく変換できない恐れがあります。

選択ツールの状態ではテキストのエクスポートはできません。表示がグレーアウトします。

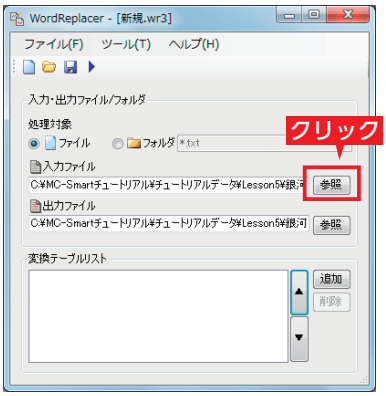
テキストエクスポートの際、**出力オプション**で書き出すタグの種類を設定できます。



MC-Smart には**索引作成の専用ソフト**の **Smart-index** が付属しています。このソフトでは索引タグを自動的に付加したり、索引の並び替えやノンブルのまとめ処理などを簡単に行うことができます。また、索引の同上処理など複雑な設定が可能です。

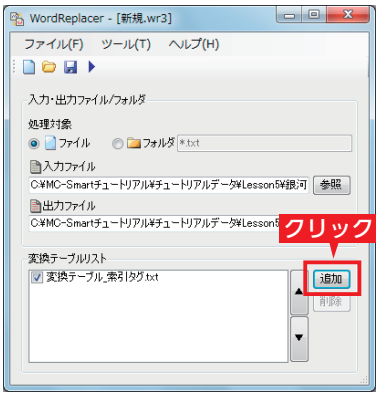
1 WordReplacer の【**ファイル**】メニュー→【**新規作成**】をクリックします。

2 【**入力ファイル**】の【**参照**】をクリックし、『**銀河鉄道の夜 .txt**』を指定します。



ファイル名
銀河鉄道の夜 .txt

3 変換テーブルはすでに用意しているものを使用します。【**変換テーブルリスト**】の【**追加**】をクリックし、『**Lesson5**』フォルダ内の『**テーブル**』フォルダにある『**変換テーブル _ 索引タグ .txt**』を指定します。



ファイル名
変換テーブル _ 索引タグ .txt

『変換テーブル _ 索引タグ』の内容

星図　【Tab】<C IDX1 " せいす "> 星図 <C ¥/IDX1>
烏瓜　【Tab】<C IDX1 " からすうり "> 烏瓜 <C ¥/IDX1>
ケンタウルス【Tab】<C IDX1 " けんたうるす "> ケンタウルス <C ¥/IDX1>
マグネシヤ　【Tab】<C IDX1 " まくねしや "> マグネシヤ <C ¥/IDX1>
大熊星　【Tab】<C IDX1 " おおくまほし "> 大熊星 <C ¥/IDX1>
天気輪　【Tab】<C IDX1 " てんきりん "> 天気輪 <C ¥/IDX1>
硫黄　【Tab】<C IDX1 " いおう "> 硫黄 <C ¥/IDX1>
アルビレオ　【Tab】<C IDX1 " あるひれお "> アルビレオ <C ¥/IDX1>
金剛石　【Tab】<C IDX1 " こんこうせき "> 金剛石 <C ¥/IDX1>
アルコール　【Tab】<C IDX1 " あるこーる "> アルコール <C ¥/IDX1>

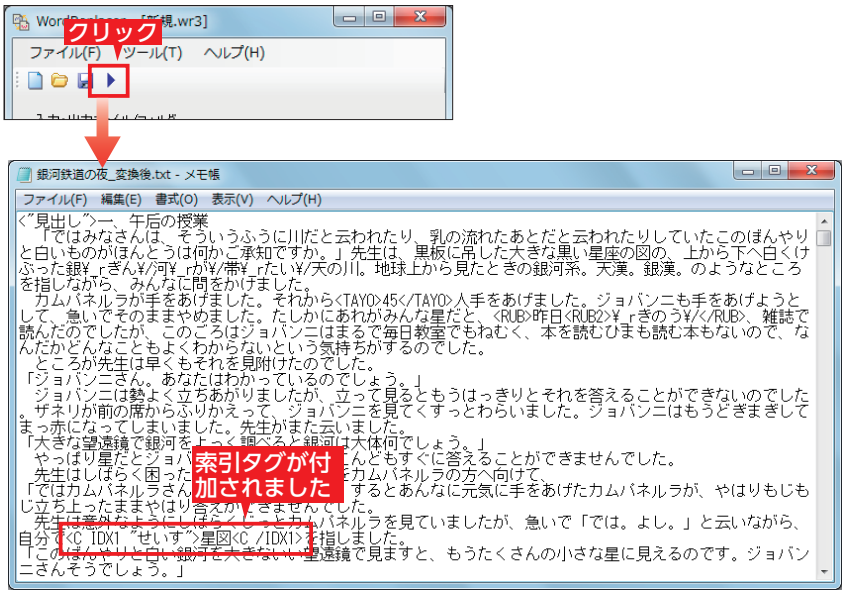
置換テーブルの作成の際に、変換後の文字列に含まれる「¥」「/」「$」「@」を文字扱いとしたい場合、文字の前に半角の¥を付けます。

誤った索引タグでは正しく索引情報が抽出されません。

<C IDXn[]" 読み ">

「n」と「"」の間には半角スペースが必要です。

4 ▶をクリックして実行します。



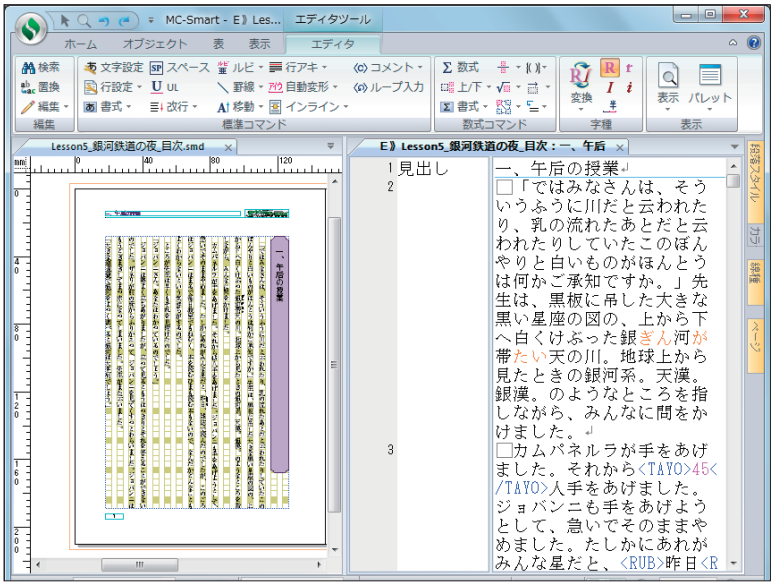
5 **【ファイル】**メニュー→**【名前をつけて保存】**をクリックし、ファイルを任意の場所に『**索引タグ付加 .wr3**』という名前で保存します。

ファイル名　索引タグ付加 .wr3

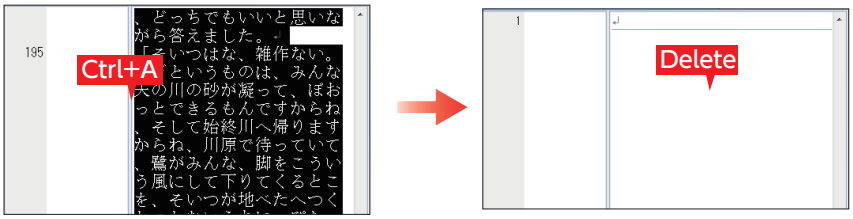
3 索引タグ付きテキストのインポート

すでにある本文テキストを削除し、索引タグが付加されたテキストファイルを MC-Smart に流し込みます。

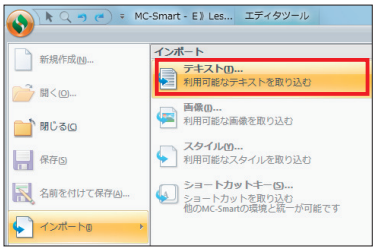
1 『**Lesson5_ 銀河鉄道の夜 _ 目次 .smd**』を開き、エディタを起動します。



2 本文セクションにカーソルを置き、【Ctrl+A】で本文テキストを全て選択し、【Delete】キーを押してテキストを削除します。



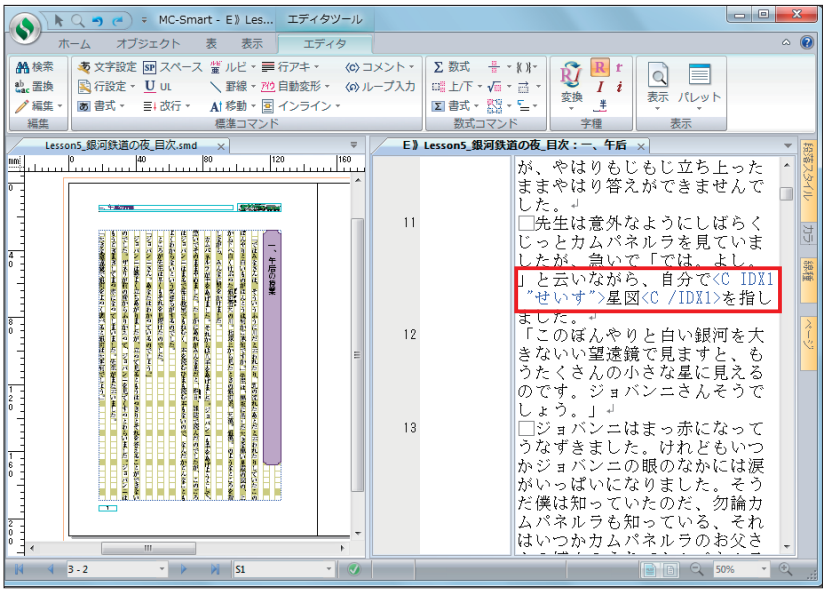
3 エディタにカーソルを挿入した状態で をクリックして、【インポート】→【テキスト】をクリックします。



4 『**銀河鉄道の夜_変換後.txt**』を選択し、【**タグ付きANSIテキスト**】を選択して【**開く**】をクリックします。

ファイル名　銀河鉄道の夜 _ 変換後 .txt

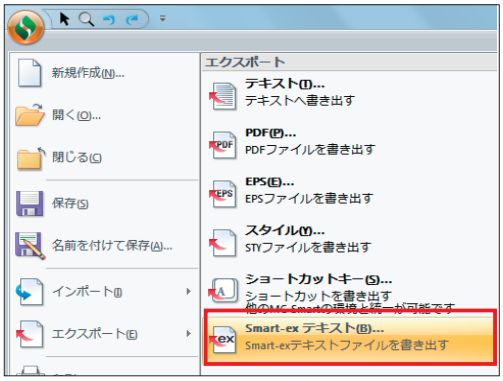
5 テキストが流し込まれました。エディタで、索引タグが正常に挿入されていることを確認します。



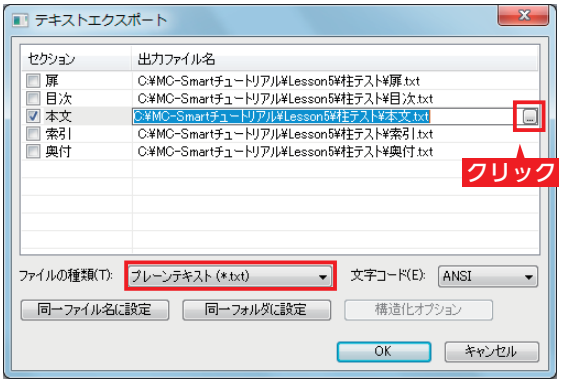
<C～>のタグはコメントタグです。コメントタグはドキュメント画面上では表示されず、組版結果への影響は生じません。
また、コメントタグの中に任意のコメント文を入れることができます。
(例)　<C　組替え挿入>

4 Smart-ex テキストの書き出し

1 本文内にカーソルを挿入した状態で をクリックして、**【エクスポート】→【Smart-ex テキスト】**をクリックします。



2 セクション『**本文**』のみ書き出すため、『**扉**』『**目次**』『**索引**』『**奥付**』のチェックを外します。『**本文**』のセクションの をクリックし、Step2 でエクスポートした『**銀河鉄道の夜 _ex**』を参照して上書きします。**【ファイルの種類】**は**【プレーンテキスト】**にします。



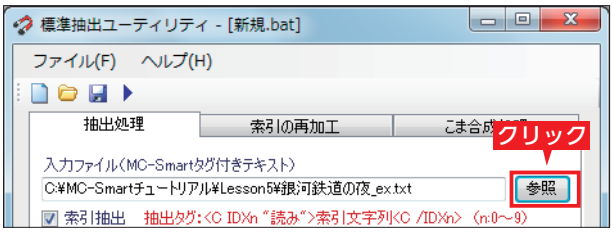
ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex.txt

3 **【OK】**をクリックして書き出します。

5 索引抽出の実行

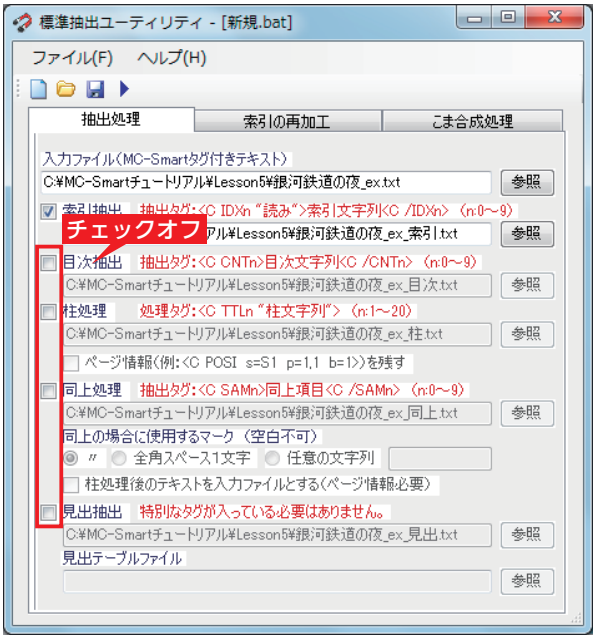
1 標準抽出ユーティリティの**【ファイル】**メニュー→**【新規作成】**をクリックします。

2 **【入力ファイル（MC-Smart タグ付きテキスト）】**の**【参照】**をクリックし、『**銀河鉄道の夜 _ex.txt**』を開きます。

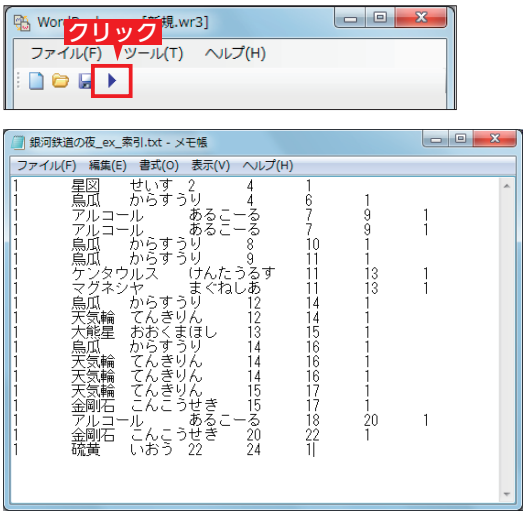


ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex.txt

3 索引抽出以外の項目のチェックを全て外します。



4 ▶をクリックして実行します。



5 **【ファイル】**メニュー→**【名前を付けて保存】**をクリックし、ファイルを任意の場所に『**索引抽出 .bat**』という名前で保存します。

ファイル名　索引抽出 .bat

索引抽出ファイルの書式は以下のようになります。

1 列目：索引番号
（索引抽出タグ『n』の番号）
2 列目：索引文字列
3 列目：ノンブル 1
4 列目：ノンブル 2
5 列目：段数

ノンブルを 3 種類以上使用していた場合でも、書き出されるのはノンブル番号 1/2（N1/N2）のみとなります。

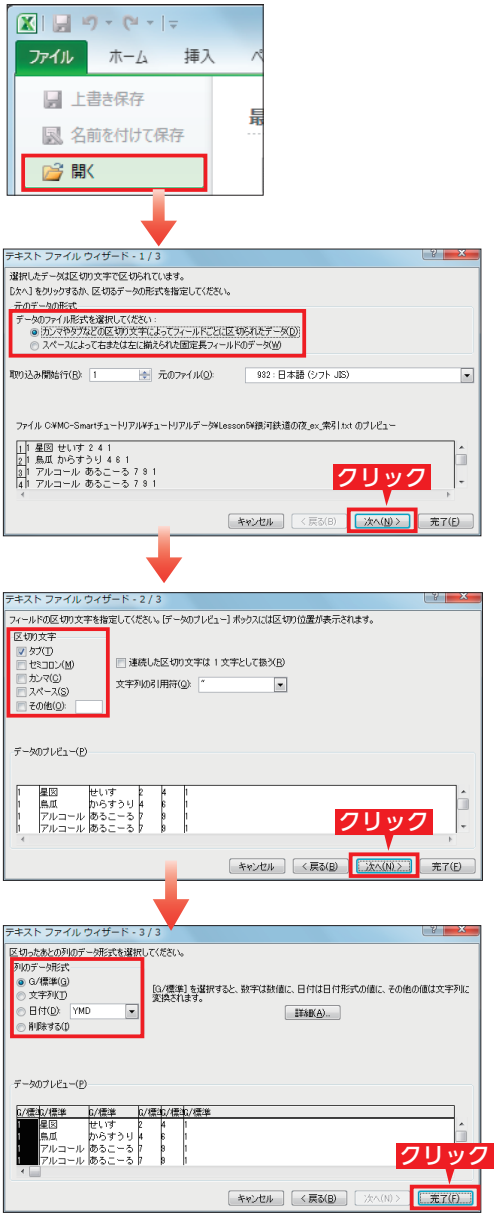
6 索引テキストの再加工

索引抽出を実行すると、同じ索引項目も一つずつページ順に抽出されます。標準抽出ユーティリティではこれらの項目についてノンブルのまとめ処理を行うことができますが、その前に外部のソフトウェアを使って順序の並び替えを行う必要があります。本チュートリアルでは Microsoft Excel を利用した並び替えを行います。

Excel ファイルを開く

1 PC 内にインストールされている Excel を起動します。
※本チュートリアルでは Excel2010 を使用して説明しています。

2 **【ファイル】**タブ→**【開く】**をクリックし、**【ファイルの種類】**を**【テキストファイル】**にして『**銀河鉄道の夜_ex_索引.txt**』を選択します。このとき、**【テキストファイルウィザード】**が出てきた場合は、以下のように設定します。



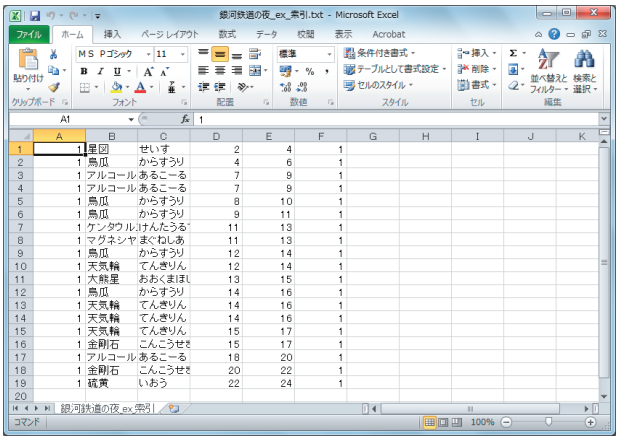
元のデータの形式
- ◉カンマやタブ形式などの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ

区切り文字
- ☑タブ

列のデータ形式
- ◉G/ 標準

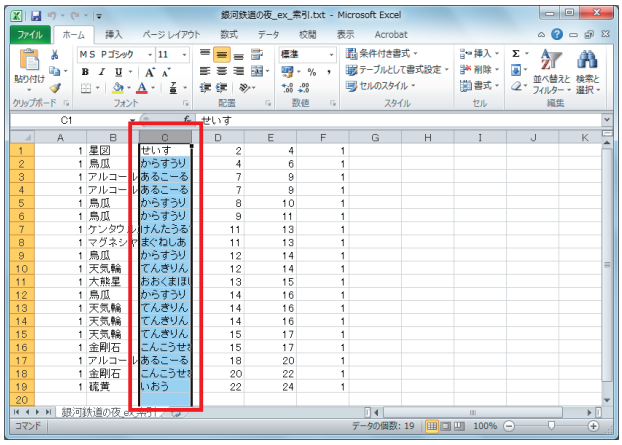
OS やアプリケーションのバージョンによって Excel の起動方法や機能・動作は異なります。詳しくはお使いの Excel に付属しているヘルプなどをご参照ください。

3 ファイルが開きます。

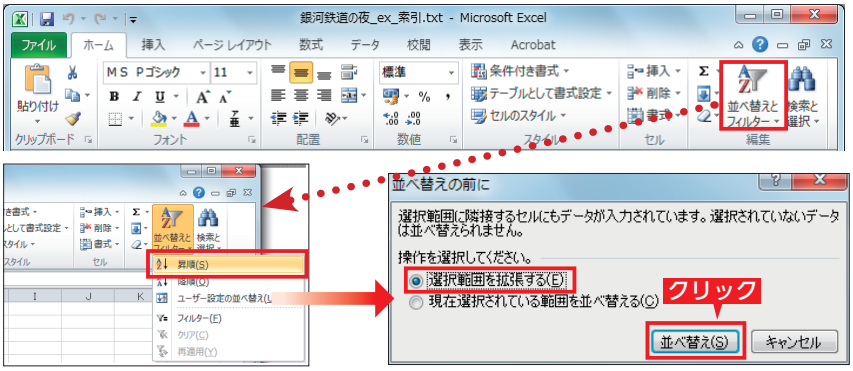


ソートを行う

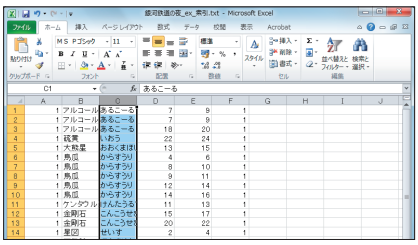
4 ソートの基準とする３列目を選択します。



5 **【ホーム】**タブ→**【編集】**→**【並べ替えとフィルタ】**→**【昇順】**をクリックします。**【並べ替えの前に】**というメッセージが出てきますので、**【選択範囲を拡張する】**にチェックを入れて**【並べ替え】**をクリックします。



6 データが３列目を基準にしてソートされました。上書き保存をしておきます。



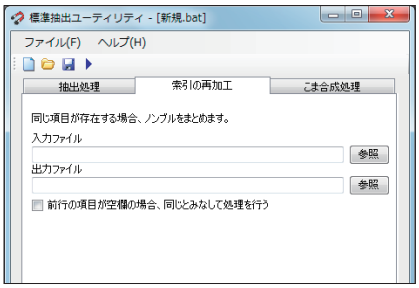
『Lesson5』フォルダにソート済みのテキストファイルをご用意しています。ソートを行うソフトがない場合はご利用ください。

ファイル名

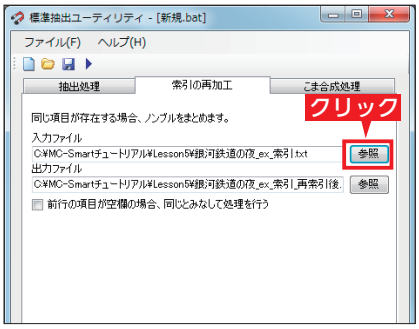
『銀河鉄道の夜 _ex_ 索引ソート済み .txt』

索引の再加工を行う

7 【**標準抽出ユーティリティ**】を起動し、【**索引の再加工**】タブを開きます。



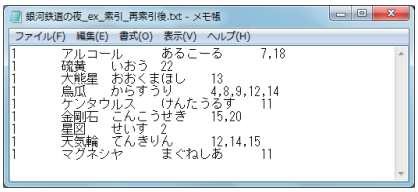
8 【**入力ファイル**】の【**参照**】をクリックし、『**銀河鉄道の夜 _ex_ 索引 .txt**』を指定します。



ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex_ 索引 .txt

9 ▶をクリックして実行します。

10 同じ索引項目がまとめられました。



11 【**ファイル**】メニュー→【**上書き保存**】をクリックし、『**索引抽出 .bat**』にデータを上書き保存しておきます。

12 標準抽出ユーティリティを終了します。

入力ファイルを指定すると、出力ファイル名は自動的に設定されます。
(例)
入力ファイル名 _ 再索引後 .txt

7 WordReplacer で出力ファイルを加工する

索引ファイルをそのまま MC-Smart にインポートすることもできますが、より効率よくデータを作成するために、WordReplacer を使用してデータを加工し形成してから流し込みます。今回は下図のようにテキストを置換させます。

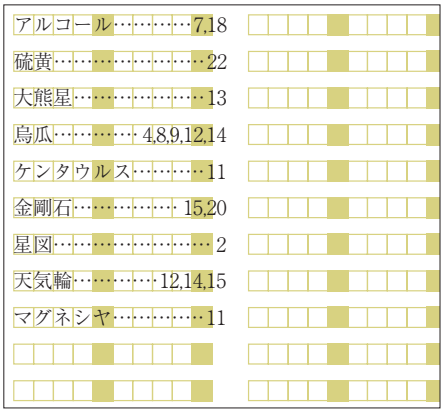
【置換前】

1	アルコール	あるこーる	7,18
1	硫黄	いおう	22
1	大熊星	おおくまほし	13

【置換後】

アルコール <FIL type=LED," ブラック ",100%>7,18
硫黄 <FIL type=LED," ブラック ",100%>22
大熊星 <FIL type=LED," ブラック ",100%>13

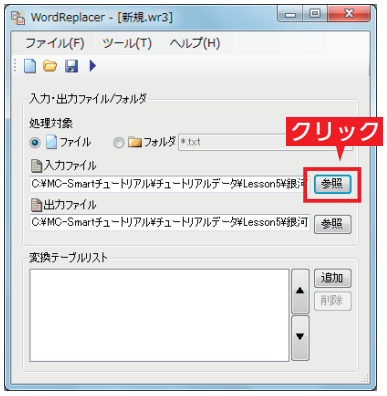
【MC-Smart へ取り込み後のイメージ】



WordReplacer を実行する

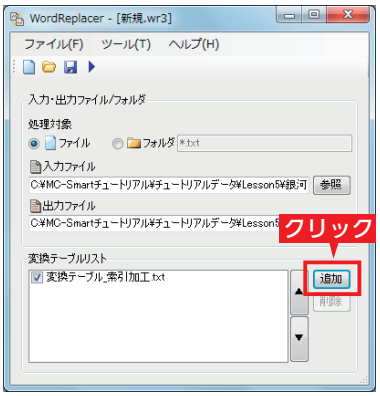
1 **【WordReplacer】**の**【ファイル】**メニュー→**【新規作成】**をクリックします。

2 **【入力ファイル】**の**【参照】**をクリックして、『**銀河鉄道の夜 _ex_ 索引 _ 再索引後 .txt**』を指定します。



ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex_ 索引 _ 再索引後 .txt

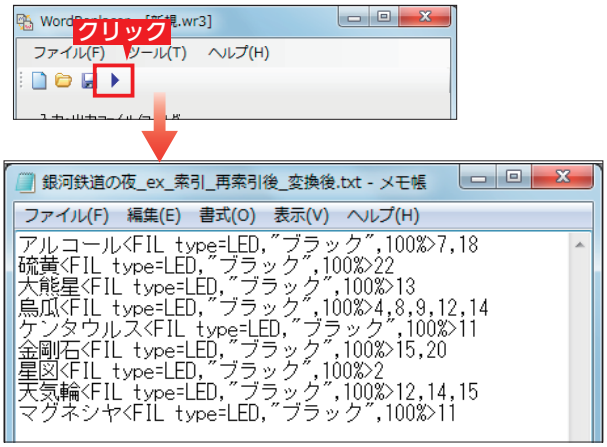
3 変換テーブルはすでに用意しているものを使用します。**【変換テーブルリスト】**の**【追加】**をクリックし、『**Lesson5**』フォルダ内の『**テーブル**』フォルダにある『**変換テーブル _ 索引加工 .txt**』を指定します。



ファイル名
変換テーブル _ 索引加工 .txt

『変換テーブル _ 索引加工』の内容
^1¥t(.+?)¥t(.+?)¥t(.+?)【Tab】$1<FIL type=LED," ブラック ",100%>$3¶

4 ▶をクリックして実行します。



5 **【ファイル】**メニュー→**【名前をつけて保存】**をクリックし、ファイルを任意の場所に『**索引加工 .wr3**』という名前で保存します。

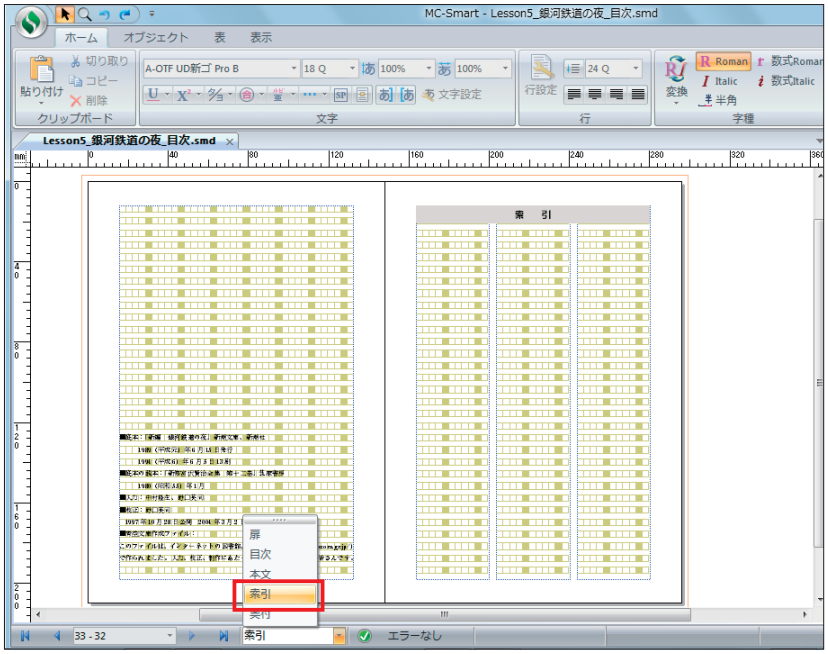
ファイル名　索引加工 .wr3

6 WordReplacer を終了します。

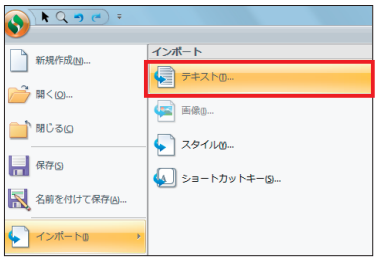
8 加工済みテキストをインポートする

WordReplacer で加工したテキストを、MC-Smart のデータに流し込みます。

1 『**Lesson5_ 銀河鉄道の夜 _ 目次 .smd**』を開き、ステータスバーから『**索引**』を選択し、索引セクションに移動します。



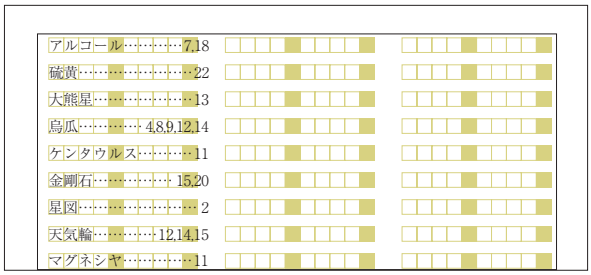
2 『**索引**』という見出しの次行にカーソルを置いた状態で をクリックして、**【インポート】→【テキスト】**をクリックします。



3 ファイル名に『**銀河鉄道の夜 _ex_ 索引 _ 再索引後 _ 変換後 .txt**』を指定し、**【タグ付き ANSI テキスト】**を選択し、**【開く】**をクリックします。

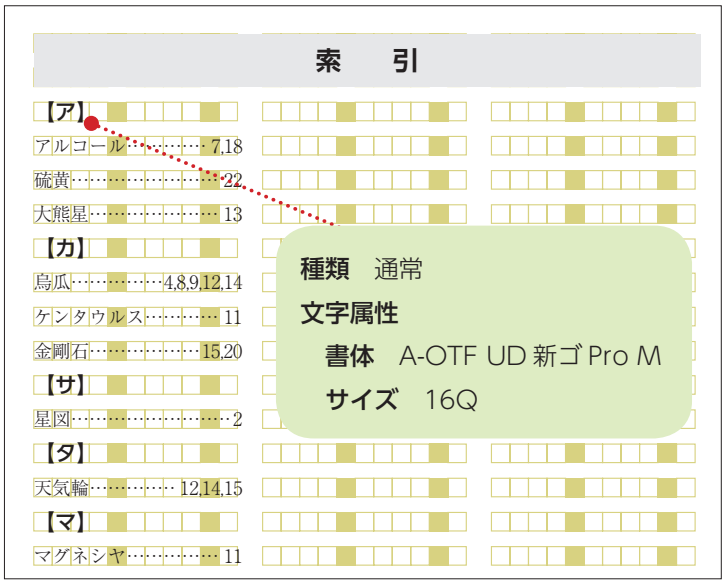
ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex_ 索引 _ 再索引後 _ 変換後 .txt

4 索引テキストが流し込まれます。



9 ページの体裁を整える

1 下図のように頭文字の見出しを作成し、索引ページを完成させます。



2 をクリックして【名前を付けて保存】をクリックし、【Lesson5】フォルダに『Lesson5_ 銀河鉄道の夜 _ 目次・索引 .smd』という名前でファイルを保存します。

別売の DB カタログオプションに付属の「MXP for Smart」を使用すると、ソート・ノンブルのまとめ・組版タグの付加・タイトルや見出しの生成などの処理にまとめて対応できます。

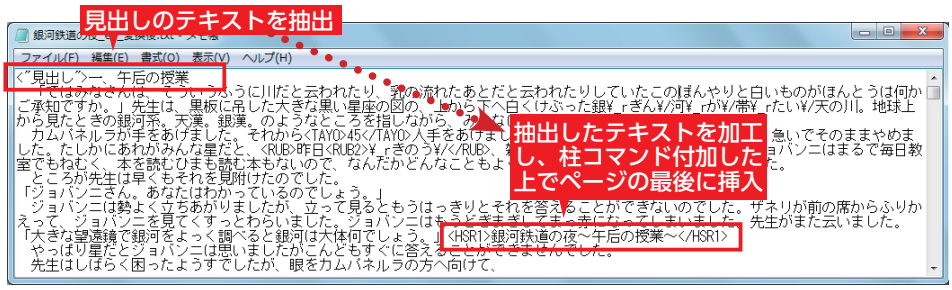
Step4 柱の作成

MC-Smart で柱を表示させる場合、チュートリアル Lesson2 のように見出しスタイルを適用した文字を柱とする設定を行うこともできますが、ページごとに任意の文字を柱にしたい場合、柱コマンドを使用します。

柱コマンドタグ：<HSRn> ～ </HSRn>　※ n は 1 ～ 20 の数字

自動で柱を作成するには、標準抽出ユーティリティの柱抽出機能もしくは柱の作成に特化した柱抽出ユーティリティを使用します。柱抽出ユーティリティでは、偶数ページと奇数ページで異なる設定を行うなど、より詳細な設定を行うことができます。

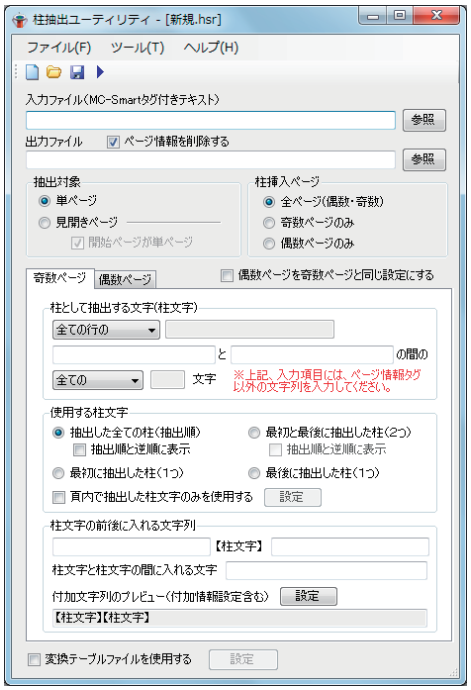
本チュートリアルでは柱抽出ユーティリティを使用し、下図のように MC-Smart から書き出したタグ付きテキストから見出しの文字を抽出し、柱コマンドを付加する設定を行います。



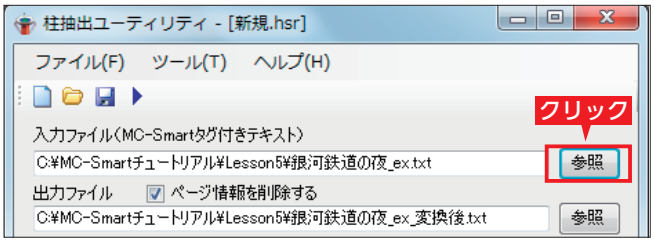
1 柱抽出ユーティリティの設定

柱抽出ユーティリティの設定

1 柱抽出ユーティリティを起動します。

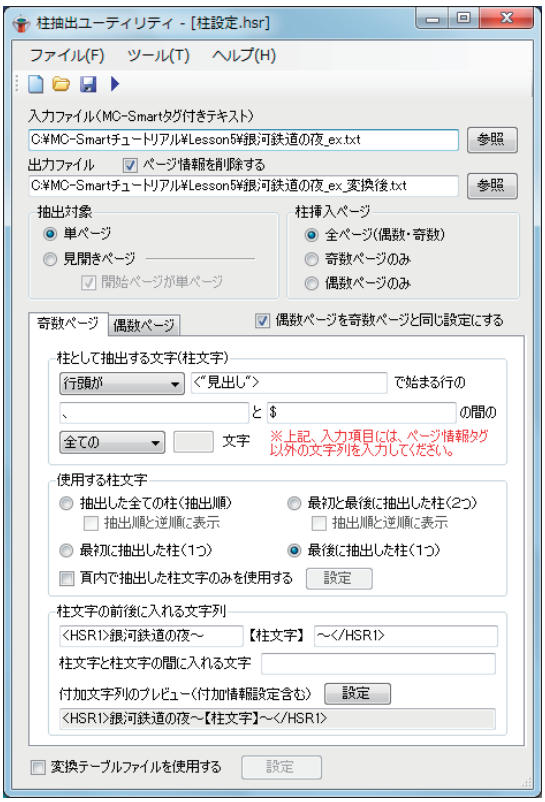


2 【入力ファイル（MC-Smart タグ付きテキスト）】の【参照】をクリックし、『**銀河鉄道の夜 _ex.txt**』を開きます。



ファイル名　銀河鉄道の夜 _ex.txt

3 柱抽出ユーティリティを下図のように設定します。

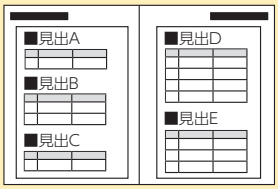


抽出対象　単ページ
柱挿入ページ　全ページ
☑ 偶数ページを奇数ページと同じ設定にする
柱として抽出する文字（柱文字）
　行頭が <" 見出し "> で始まる行の　、　と　$　の間の全ての文字
使用する柱文字　最後に抽出した柱（1 つ）
柱文字の前後に入れる文字列
　<HSR1> 銀河鉄道の夜～【柱文字】～ </HSR1>

柱抽出ユーティリティでは、柱として使用したいテキストの条件を指定して抜き出し、その文字に柱コマンドやテキストを付加したり、WordReplacer の変換テーブルを加えて処理することができます。

柱抽出ユーティリティでは、以下のような体裁も可能です。

■本文ドキュメント例

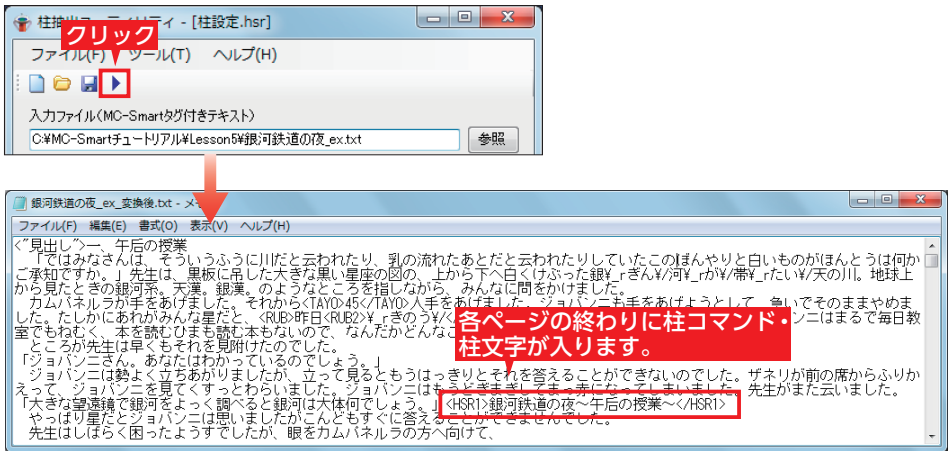


柱抽出実行

抽出対象：単ページ
☑偶数ページを奇数ページと同じ設定にする
◉**抽出した全ての柱（抽出順）**
見出A,見出B,見出C
◉**最初に抽出した柱（1 つ）**
見出A
◉**最初と最後に抽出した柱(2 つ)**
見出A ～見出C
抽出対象：見開きページ
◉**最初と最後に抽出した柱(2 つ)**
見出A ～見出E

『**$**』は『**行末の**』という意味の正規表現です。

4 ▶をクリックして実行します。



5 柱抽出ユーティリティの【**ファイル**】メニュー→【**名前をつけて保存**】をクリックし、ファイルを任意の場所に『**柱加工 .hsr**』という名前で保存します。

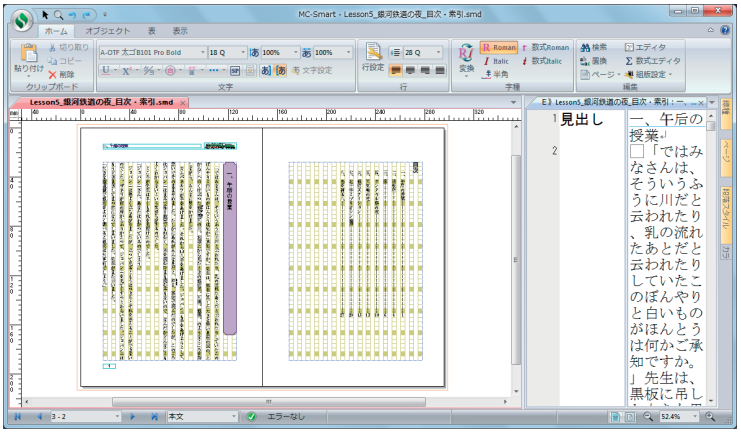
ファイル名　柱加工 .hsr

6 柱抽出ユーティリティを終了します。

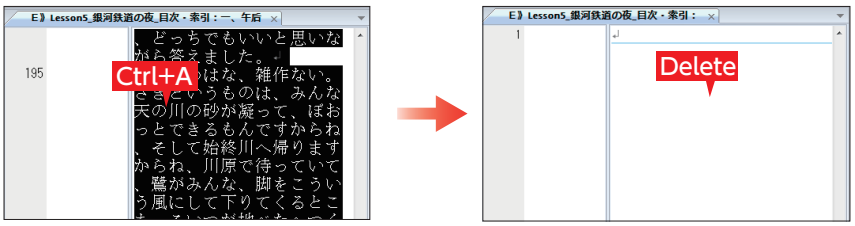
3 柱テキストのインポート

柱処理後のテキストファイルを MC-Smart に流し込みます。

1 『**銀河鉄道の夜 _ 目次・索引 .smd**』を開き、エディタを起動します。

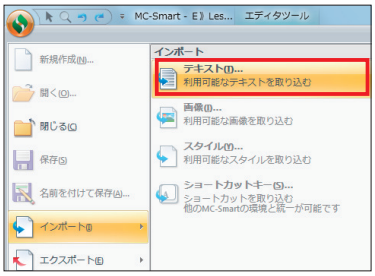


2 本文セクションにカーソルを置き、【**Ctrl+A**】で本文テキストを全て選択し、【**Delete**】キーをクリックしてテキストを削除します。



同じページ内で柱の指定が複数出てきた場合、後で出てきた指定が有効になります。

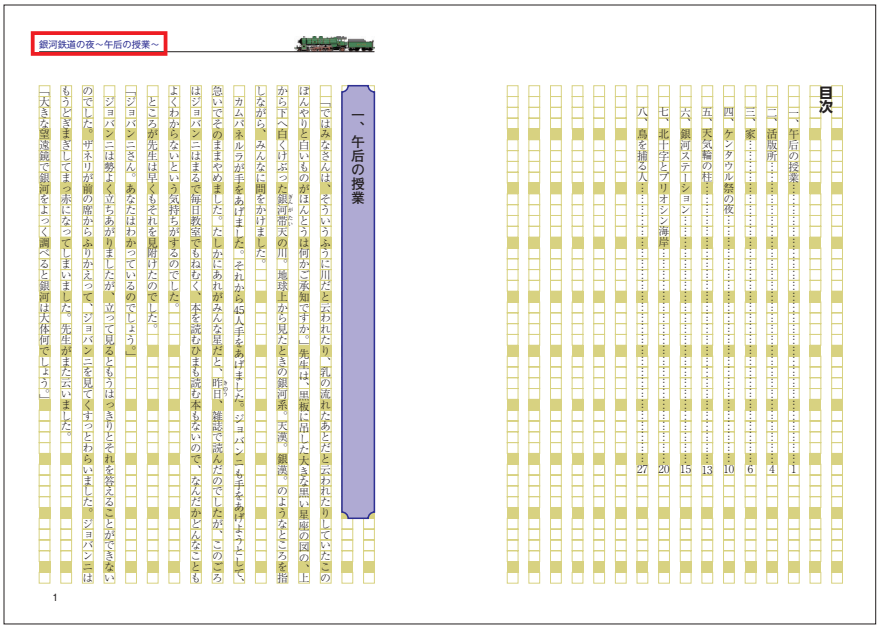
3 エディタにカーソルを挿入した状態で をクリックして、**【インポート】→【テキスト】**をクリックします。



4 **『銀河鉄道の夜 _ex_ 変換後 .txt』**を選択し、**【タグ付き ANSI テキスト】**を選択して**【開く】**をクリックします。

ファイル名
銀河鉄道の夜 _ex_ 変換後 .txt

5 柱の付いた本文テキストが流し込まれます。



6 をクリックして**【名前を付けて保存】**をクリックし、**【Lesson5】**フォルダに**『Lesson5_ 銀河鉄道の夜 _ 完成 .smd』**という名前でファイルを保存します。

以上で目次・索引・柱は完成です。

MC-Smart チュートリアルガイド

2013 年 09 月 24 日　第 1 版

発　　行　株式会社　モリサワ
本　　社　大阪市浪速区敷津東2-6-25　〒556-0012
　　TEL (06) 6649-2151
東京本社　東京都新宿区下宮比町2-27　〒162-0822
　　TEL (03) 3267-1231

本製品に関する情報は　www.morisawa.co.jp